

科目名	仏教学講義					単位	4.0
担当教員	浅野 玄誠						
授業形態	講義	開講期間	通年	配当年次	1	授業番号	3291

●授業のテーマ
 仏教基礎学

- 到達目標
- ・ 仏教の基本的な術語を理解する。
 - ・ 仏教の他の宗教とは異なった個性的な宗教性の価値を知る。

●学習内容(授業概要)

仏教を哲学的な思索と見るのか、あるいは宗教的实践と見なすのか。わたしたちは非仏教的世界で用いられるこのような二律背反の課題に迷うことしばしばである。

仏教はその両面を持っているともいえるし、そのどちらでもないともいうる。仏教的あり方は、「哲学」でも「宗教」でもなく、まさしく「仏教」に他ならない。

仏教の歴史的観察と基礎的な概念を通して、真に価値ある宗教のあり方を問うていきたい。

●学習内容(授業計画)

≪前期≫

1. 本講の目的と方法
2. 宗教としての仏教—宗教の概念—
3. 宗教としての仏教—仏教の人間観—
4. 仏教誕生の歴史的意義—仏教誕生前史—
5. 仏教誕生の歴史的意義—インド思想と仏教(1)—
6. 仏教誕生の歴史的意義—インド思想と仏教(2)—
7. 仏陀論
8. 仏陀のさとりとその内容(1)—中道と無記—
9. 仏陀のさとりとその内容(2)—五蘊無我・法の概念—
10. 仏陀のさとりとその内容(3)—縁起—
11. アビダルマ仏教の思想的特徴(1)
12. アビダルマ仏教の思想的特徴(2)
13. 初期仏教の修道論(1)
14. 初期仏教の修道論(2)
15. まとめ

≪後期≫

1. 大乘仏教興起(1)
2. 大乘仏教興起(2)
3. 初期大乘教典(1)
4. 初期大乘教典(2)
5. 中観(1)—空—
6. 中観(2)—二諦説—
7. 中観(3)—縁起説—
8. 唯識(1)—アーラヤ識—
9. 唯識(2)—識転変—

10. 唯識（3）—三性説—
11. 仏性思想
12. 大乘の仏道（1）—菩薩道—
13. 大乘の仏道（2）—六波羅蜜—
14. 仏教伝播の意義
15. まとめ

●準備学習・事後学習の内容

- ・テキストの該当範囲を読み込んでくる。
- ・ノートを整理し、もっとも重要であったと思われることがらを100-200字程度にまとめる。

●成績評価方法・基準

平常点(40%)、前期試験(30%)、後期試験(30%)

●テキスト（必携）

≪No.1.≫書籍名：大乘の仏道—仏教概要—、著者名：真宗大谷派教科書編纂委員会、出版社：東本願寺出版部、販売先：生協

●参考文献／その他

平川彰他『講座・大乘仏教』1-10、春秋社。

中村元『ゴータマ・ブッダ I, II 原始仏教 I, II』『原始仏教思想 I, II』『原始仏教から大乘仏教へ』『大乘仏教の思想』『空の論理』春秋社。

長尾雅人他『岩波講座 東洋思想』第8巻、第9巻、第10巻、岩波書店。

●履修上の注意